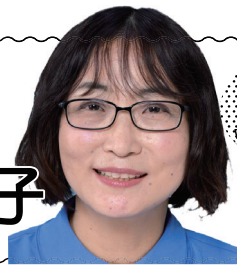


日本共産党

高槻市議員

きよた 純子



ニュース

2026年8月26日

9月号 No.149

発行：日本共産党高槻市議員団 きよた純子

連絡先：議員団控室（市役所内）

TEL072-674-7230 FAX072-674-3202

患者負担増に怒り 8月から高額療養費上限額引き上げ

医療費が高額になった場合、自己負担額を一定に抑える「高額療養費制度」。自己負担の月額上限が8月から引き上げられました。引き上げは、来年8月に2段階にわけて実施されます。高額療養費

制度は、がんや難病患者など、必要とする人にとつての命綱です。（5月29日の参院本会議で、この見直しに賛成したのは、自民、維新、国民、参政、保守、みらい）

「保険料軽減」は口実
OTC類似薬と高額療養費の負担増は中止を
相次ぐ政府の医療制度改悪は「現役世代の負担軽減」の名の下に行われています。しかし、高市政権が決めたOTC類似薬の負担増

（来年3月から実施）、高額療養費の負担増による保険料軽減は、1人当たり「月150円」にすぎません。「現役世代の負担軽減」と言

いますが、実態は、医療・介護にかかる国の支出を減らすための国
民への大負担増の押しつけです。

OTC類似薬

77成分について、自民・維新政権は来年3月から患者負担増を狙います。

例えば風邪で発熱し解熱・鎮痛剤のロキソニンや、痰（たん）・鼻づまり解消のムコダインを処方されると薬代の4分の1が保険から外され、窓口負担3割の人では実質5割負担になります。



災害への備えについて

2024年能登半島地震からの復旧・復興が道半ばの中、今度は2026年熊本地震が発生しました。避難所では、避難者の体調悪化を防ぐために必要となる温かい食事や段ボールベッド、簡易なトイレ等の物資・設備が、発災後かなりの期間確保されない状況があります。

地球温暖化で台風が大型化し、地震が頻発する災害大国・日本で、何より必要なのは災害
イタリアのTKB48
イタリアでは大規模分散備蓄があり、20州すべてに備蓄が義務化され、さらに国が3カ所に大規模な備蓄倉庫を準備しています。災害時にはボランティア

への備えと被災後の生活・生業支援です。国の抜本的な対策が急がれます。
ア団体に指示を出し、費用を負担する仕組みが整えられています。「災害時でも市民が営んでいる生活を保障する」市民社会保護の理念のもとに避難所運営

をしています。被災した自治体職員が運営を担うこともありま

大規模備蓄、 国の責任で

日本でも各自治体の備蓄強化と、国としての大規模な分散備蓄が必要です。また、被災自治体自身が混乱・疲弊している下では物資が届きにくいいため、国や広域自治体（都道府県）が司令塔機能を發揮し、現場へ直接物資

9月議会日程

8月31日(月)	本会議／提案
9月2日(水)	本会議／質疑
4日(金)	文教にぎわい委員会 福祉企業委員会
7日(月)	市民都市委員会 総務消防委員会
14日(月)	本会議／採決、 一般質問
15日(火)	本会議／一般質問
16日(水)	本会議／一般質問

ぜひ傍聴をお願いします。
※いずれも午前10時開会です。



ご存じですか？ TKB48

T：快適で十分な数のトイレ
K：温かい食事を提供するキッチン
B：簡易ベッド
災害時の避難所に48時間以内に届ける

を届ける「プッシュ型支援」の徹底を行うことが求められます。

法制化・強化することを求めています。



数学・経済・科学等は総合学習等の時間で学び、特別授業としてマナーや身だしなみ（おしゃべりなど）も計画。卒業後の進路について、体

石川たえ大阪府議会議員、府内の市議

キャンパスオリーブを視察

日本共産党の石川たえ大阪府議会議員（吹田市選出）と、吹田市・茨木市・高槻市の市会議員団は、7月14日に島本町にある特別支援学校高等部卒業後の学びの場（福祉専攻科）「キャンパスオリーブ」を視察しました。日本共産党高槻市会議員団からはきよた議員が出席。

はじめに「18歳で就労系の事業所に通う人の多くは「青春」の概念がないまま大人になってしまう。青年期に青春を満喫して欲しい」と学びの場の大切さを語られました。

キャンパスオリーブの特徴として、学生が関心のあることを、できるだけ取り入れて、毎年カリキュラムを検討。国語・

少人数学級で教育環境の改善を

教育格差の拡大、いじめや不登校の増加など、ますます教育現場では困難な状況が表れています。

高槻市では独自に小学校で「35人以下学級」を2013年度から順次実施。さらに2022年度から「35人以下学級」を中学1年生に、2023年度に2・3年生まで拡大しました。

国においては、公立学校の35人学級は小学校で2025年度に全学年で完了し、続いて、中学校でも2026年度から中学1年生を対象に導入が始まり、順次全学年へ拡大されます。

しかし、OECD加盟国の平均学級規模（1クラスあたりの児童・生徒数）は、小学校が約21人、中学校が約23人です。日本共産党は、国民的な要求として少人数学級の推進を求め、小・中学校での35人学級化などの前進に力を合わせてきました。さらに小・中・高校すべての学年で早期に「30人以下学級」を実現することを政策として掲げています。

高槻市に対しては、市独自の30人以下学級の実施を求めています。

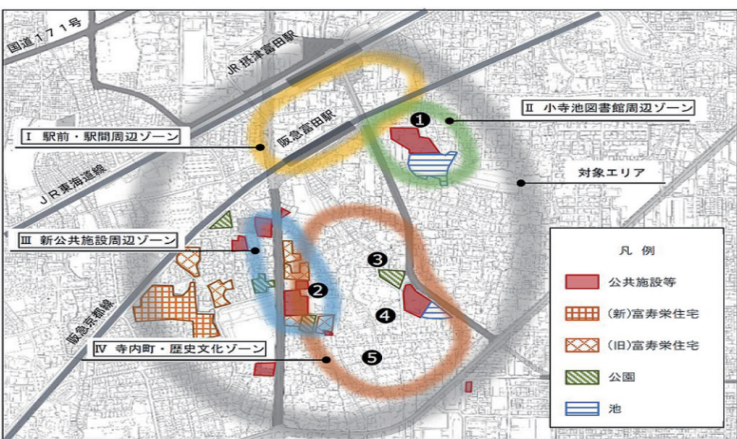
富田地区活性化プロジェクト

高槻市は、富田地区の歴史や文化を活かし、公共施設の再編や市有地利活用を通じて、概ね10年間でにぎわいあふれる西部都市拠点にふさわしいまちづくりに向け、5つのプロジェクトを推進するとしています。以下は各プロジェクトと、スケジュール予定です。

富田地区活性化プロジェクト全体スケジュール(予定)

	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
Project-① 小寺池図書館のリニューアル	改修工事						
Project-② 新公共施設の整備(複合化)	基本計画		設計～工事				
Project-③ 富田支所・富田コミュニティセンター・富田公民館の建て替え	設計	工事～移転					
Project-④ 歴史文化施設(ホール・資料館)の整備	基本計画		設計～工事				
Project-⑤ 歴史的なまちなみの保全・創出	方針検討		事業実施				

※ スケジュールは現時点の予定であり、今後、変更となる可能性があります。





673-0002

生活相談 ☆ホットライン お困りごとはありませんか？

日時：9月24日(木) 14:00～15:30

市議員 きよた純子

当日は電話で相談を受け付けします。電話イラストの上の番号におかけください。